

# 長野県アウトドアサウナの振興に向けた 構造設備基準の見直しについて



**Go Nature. Go Nagano.**

令和6年7月25日

長野県観光スポーツ部 観光誘客課

長野県健康福祉部 食品・生活衛生課



長野県PRキャラクター「アルクマ」  
©長野県アルクマ

# 県内のサウナ振興のポテンシャル

近年のサウナブームにより  
県内のサウナ数は増加傾向

人口10万人あたりの  
サウナ数は**全国第2位**  
※長野県：20.2

**北信越圏内では第1位**

(出典) 2023.1.27日経新聞

## The Sauna (信濃町)

➢ 「LAMP (ランプ) 野尻湖」に隣接する  
完全予約制のアウトドアサウナ

## Hakuba Zekkei Sauna ao (大町市)

➢ 青木湖面に白馬の山並みが映える  
絶景サウナ (今後オープン予定)

## From P (白馬村)

➢ ドーム型グランピング施設に本格的  
なフィンランドサウナ4基を併設

## hyva sauna (上田市)

➢ フィンランド式のセルフロウリュを採用し、  
薪や建築に木曽檜を使用したサウナ施設

## サウナスペースTOJIBA 湯治場 (小諸市)

➢ 菱野温泉「常盤館」の敷地内にあるフィンランド式  
のサウナ

## 四徳温泉キャンプ場 (中川村)

➢ 温泉とキャンプ場、サウナが一体になった  
アウトドア施設。



# アウトドアサウナ振興の基本的な考え方

アウトドアサウナは・・・

- ・ ストレス社会を生きる現代人にとって  
リラクゼーションを追究する場
- ・ 20～30代の若い世代にも広く普及
- ・ 能動的に自分だけの時間を確保できるといった  
ライフスタイルの一部として定着



一方、長野県の観光プロモーションのコンセプトは、  
「長野県ならではのアウトドアカルチャーの発信」



長野県ではアウトドアサウナを  
**信州ならではの観光コンテンツ**として磨き上げ、  
観光誘客やサウナ関連産業の振興へつなげたい

## <アウトドアサウナ振興のネックとなっている基準>

### ①風紀上、外部から見通せない構造（目隠し）が必要

脱衣所だけでなく、水着着用を前提としたサウナや水風呂も目隠しが必要

⇒目隠しにより、アウトドアサウナ特有の解放感を得られない

### ②「湯が出るシャワー設備」が必要

浴槽又は湯及び水が出るシャワーを設けることが必要

（注：湖や河川は衛生管理ができず、浴槽の代わりにならない）

⇒設備整備のハードルが高く、気軽なイベント開催が困難

## <見直しの内容>

①風紀上、外部から見通せない構造（目隠し）が必要

⇒水着等を着用する範囲は目隠し不要とする

②「湯が出るシャワー設備」が必要

⇒湯に限らず、適温の水が出るシャワーで可とする

### 【留意いただきたい事項】

①体調に配慮しつつ、無理のない範囲でアウトドアサウナをお楽しみください。

②サウナ以外の施設利用者及び周辺住民の方々にも配慮した施設運営、利用をお願いします。

※公衆浴場の設置場所の配置及び衛生等の措置の基準に関する条例施行規則を改正して実施

## <見直しによる効果>

**自然の中や街中といった様々な場所でサウナイベントの開催が可能に！**

### 【これまで】

- ・ 脱衣スペースからサウナまでを目隠しする設備整備が必要
- ・ 湯の出るシャワーが必要のため、給湯設備の設置も必須

⇒短期間のイベント開催にも、一定の設備整備が必要と高いハードル

### 【これから】

- ・ 脱衣所以外の目隠しが不要となり、設備整備の負担が軽減
- ・ ポータブルシャワーなど、給湯設備不要のシャワーでOK

⇒設備整備の負担が減り、様々な場所でサウナ設置・イベント開催が可能

